

2017年度しあわせ研究

## 急性冠症候群患者における精神的苦痛の回復について

研究員 野口普子、山下晃弘、  
浜崎景、成澤知美、  
松岡豊



幸福感をはじめとしたポジティブな感情は、健康であることや well-being などと関連していることが知られている。一方で、身体疾患の罹患は、程度の違いはあるものの精神的苦痛を感じる事が知られている。我々は、身体疾患に伴う精神的苦痛やその関連要因を明らかにし、対処方法を示すことで、心身の健康を高めることにつながり、幸福感などのポジティブな感情を抱きやすくなると考えている。

本研究は、心筋梗塞を含む急性冠症候群（ACS）の患者の精神的苦痛について明らかにすることを目的としている。その背景として、欧米の研究では、1990年代より心血管疾患への罹患はうつ病の有病率を上昇させることがメタ解析によって報告され（Meijer et al., 2011）、例えば、冠動脈疾患を発症した患者におけるうつ病の有病率は18-26%と報告されている（Rutledge, Reis, Linke, Greenberg, & Mills, 2006）。さらに、心筋梗塞を発症した後に新たにうつ病を併発した患者は、うつ病を合併していない患者に比べて、心筋梗塞後の生存率が悪化し、さらに生命予後も短くなくことが示された

（Dickens et al., 2008）。しかし、日本における ACS 後の精神疾患有病率や精神的苦痛の程度に関する知見はなかったことが挙げられる。

そこで、国立病院機構災害医療センターに入院し、緊急経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を受けた20歳以上のACS患者を対象とし調査を行った。本研究は災害医療センター倫理委員会の承認を受けて実施した。適格基準を満たした患者176名のうち101名から参加の同意が得られ6か月後の追跡調査を完遂した。参加者の平均年齢は $63.1 \pm 11.2$ 歳、男性が87名であった。入院時ACS危険因子の評価とともに、心理的反応を Hospital Anxiety and Depression Scale で評価、そしてPCI時の血清を保存した。6か月時点で Mini-International Neuropsychiatric Interview ならびに Clinician-administered PTSD Scale で診断面接を行った。

その結果、精神障害の基準を満たした者は8名（8%）、内訳は重複発症を含め、大うつ病4名、心的外傷後ストレス障害2名等であった。日本における精神疾患の有病率は欧米での先行研究に比べ低かった。したがって、これらの要因について明らかにしていく必要がある。特に生活習慣や心理・社会的要因との関連について検討することが今後の課題である。